

地震予知

できます。

地割れ山崩れ

判ります。

南海トラフ（実験中）

可能です。

火山噴火

判ります。

電磁気観測方式なら**できます。**

地象観測（大地の観測）は、お任せ下さい。JYAN研(國廣)

何故？地震予知できないの？

（答え1）

- 答え 地震の観測方法が適当では無い。（理由は以下）
- 地震計 微動が起きてからしか判らず、予知はできない。
- 直下型地震では、地震警報も間に合わない。

何故？地震予知できないの (答え2)

- **GPS観測** 1200ヶ所観測点を作って、地表の動きを観測中ですが、地下深くの事は無理
- **衛星利用** 電離層の変化を観測（まだ成功していない。）
- **海洋地震計** まだ、成功していない。
- 私に言わせたら、判るはずが無い。揺れだけじゃ判らない

できる方法ってあるの？

- あります。
- 大地の中の軋轢変化を観測します。
（あつれき＝押し合いへし合い）
が起電磁気変化が起きる。

すぐに伝わるので、予知が早い

他には無いの？

- 有ると思います。
- 雲や光
- 動物
- 他

地震って？どうして起きるの？

- 電磁気学者が語る？
- 普通の場合
- 軋轢で断層ができる
- 私が言う理論が最も正しいと思います。

どうして電磁気が生まれる。

押される = 圧電気

引き剥がされる = 負電気

擦れる = 摩擦電気

割れる = パルスやノイズ

大地からの電磁気や電波を観測

どうして電波障害が起きる

- ラジオ ノイズ等で聞こえない
 - テレビ & リモコン 勝手に着いたり消えたり
 - カーナビ 方向と狂ってしまう
 - 電柱から火花 ノイズがいっぱい
-
- 機械装置には、勝手に来る電波の防護装置が弱いから障害が起きる。

どうして予知できるの？

- 電磁気（波）観測だから　次が、できた証明です。
- こんな観測は、他には、誰も出来ていません。
- 学会の教授連は、悔しいのかもしれませんが、取り上げません。
- 次の頁は、熊本地震での地震発生状況　連続地震だった。

熊本地震は2週間に10回の大揺れ 大地震は殆ど「連続地震」

熊本では(4/19)
までに
震度7が2回

6強が 2回

6弱が 3回

5強が 3回

合計10回

	地震の発生日時	震央地名	緯度	経度	深さ	M	最大震度
1	2016/06/16 14:21:28.2	内浦湾	41°56.9'N	140°59.2'E	11km	M5.3	6弱
2	2016/04/29 15:09:34.3	大分県中部	33°15.4'N	131°22.0'E	7km	M4.5	5強
3	2016/04/19 17:52:13.6	熊本県熊本地方	32°32.1'N	130°38.1'E	10km	M5.5	5強
4	2016/04/18 20:41:57.9	熊本県阿蘇地方	33°00.1'N	131°11.9'E	9km	M5.8	5強
5	2016/04/16 09:48:32.6	熊本県熊本地方	32°50.8'N	130°50.1'E	16km	M5.4	6弱
6	2016/04/16 03:55:53.0	熊本県阿蘇地方	33°01.5'N	131°11.4'E	11km	M5.8	6強
7	2016/04/16 03:03:10.7	熊本県阿蘇地方	32°57.8'N	131°05.2'E	7km	M5.9	5強
8	2016/04/16 01:45:55.4	熊本県熊本地方	32°51.7'N	130°53.9'E	11km	M5.9	6弱
9	2016/04/16 01:25:05.4	熊本県熊本地方	32°45.2'N	130°45.7'E	12km	M7.3	7
10	2016/04/15 00:03:46.4	熊本県熊本地方	32°42.0'N	130°46.6'E	7km	M6.4	6強
11	2016/04/14 22:07:35.2	熊本県熊本地方	32°46.5'N	130°50.9'E	8km	M5.8	6弱
12	2016/04/14 21:26:34.4	熊本県熊本地方	32°44.5'N	130°48.5'E	11km	M6.5	7

熊本地震の実観測です。

- 1枚目が 一ヶ月と30日の時系列です。
- 前震、本震、余震が良く判ります。
- 次の2頁は、前震と本震です。3時間くらいに4回の地震が起きています。この全部が良く観測に出ています。
- 次の対照表は、時系列で、30分後とか1時間後の地震が判ります。

4/6&4/9日時点で地震を予知した証拠グラフ

1ヶ月グラフ

Jya Server (1m) Taketa City (1m)

前震と本震

これらは次々と起きた地震の前兆です。

余震が続きました。

4月6日と9日に、特別大きな異常の観測をしました。
大きい地震が2回来ると判った！貴重な観測データです。
14日には地震に備えて竹田に行っていました。その後の余震も異常と地震が連動しています。(100%捕捉です)

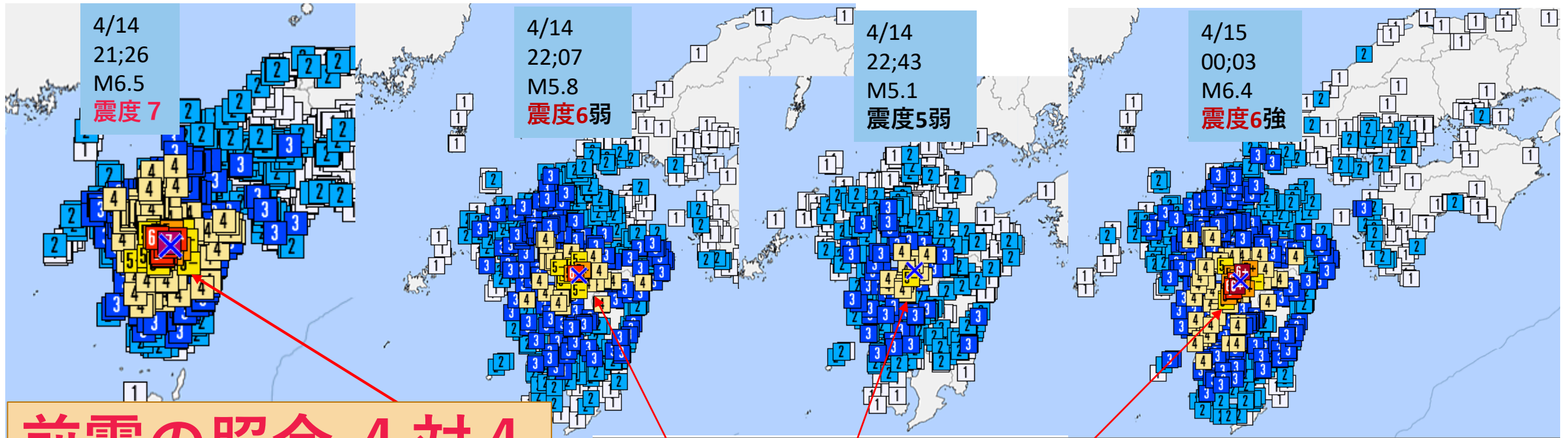
4日間グラフ

青が+16dBの揺れ

青が+16dBの揺れ

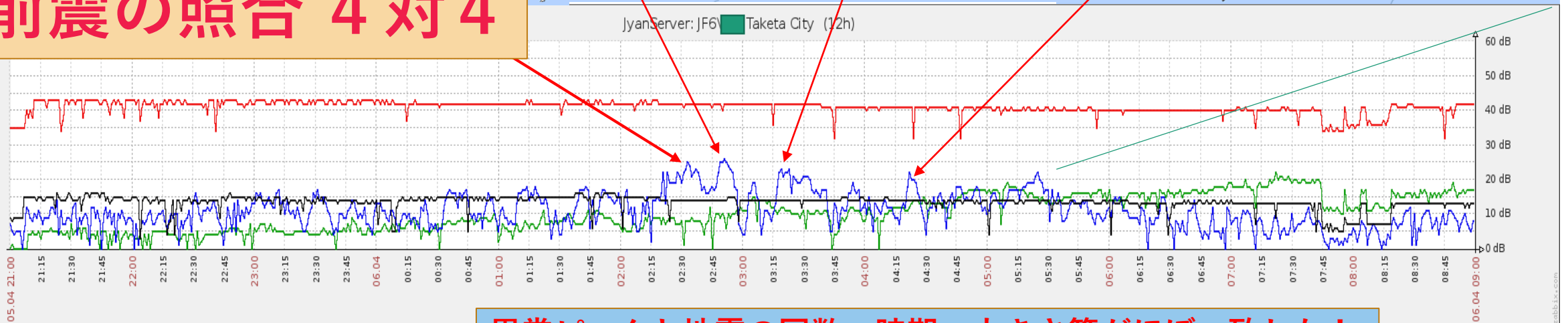
青＝熊本が、6日と9日に
平常11dB～26dBへ上昇

上図は4月の1ヶ月グラフです。下のグラフは
両方を記録した4日間の電界強度グラフです。



前震の照合 4 対 4

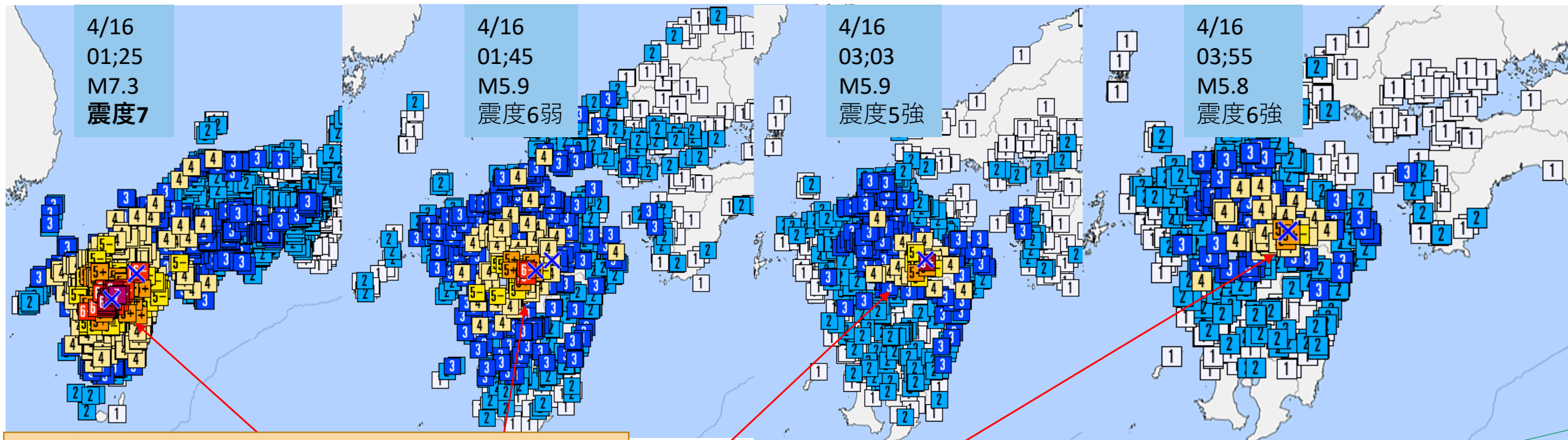
JyanServer: JF6 Taketa City (12h)



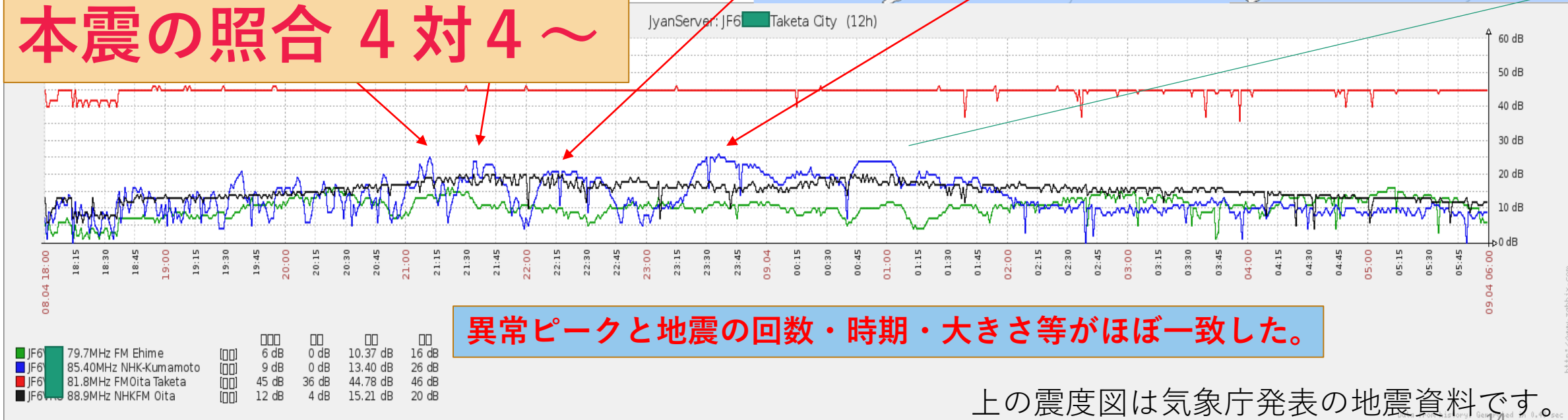
異常ピークと地震の回数・時期・大きさ等がほぼ一致した！

JF6	79.7MHz FM Ehime	17 dB	0 dB	10.10 dB	22 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	8 dB	0 dB	10.94 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FM Oita Taketa	42 dB	32 dB	41.02 dB	43 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	13 dB	3 dB	13.38 dB	16 dB

上の震度図は気象庁発表の地震資料です。

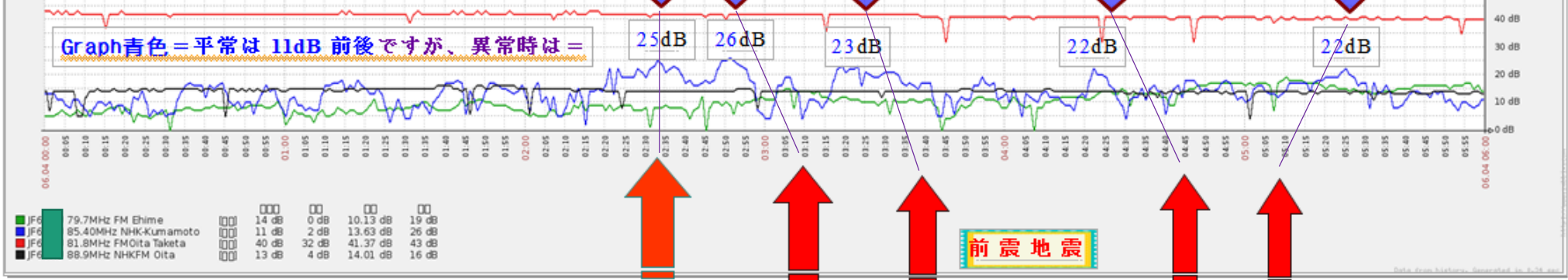


本震の照合 4 対 4 ~

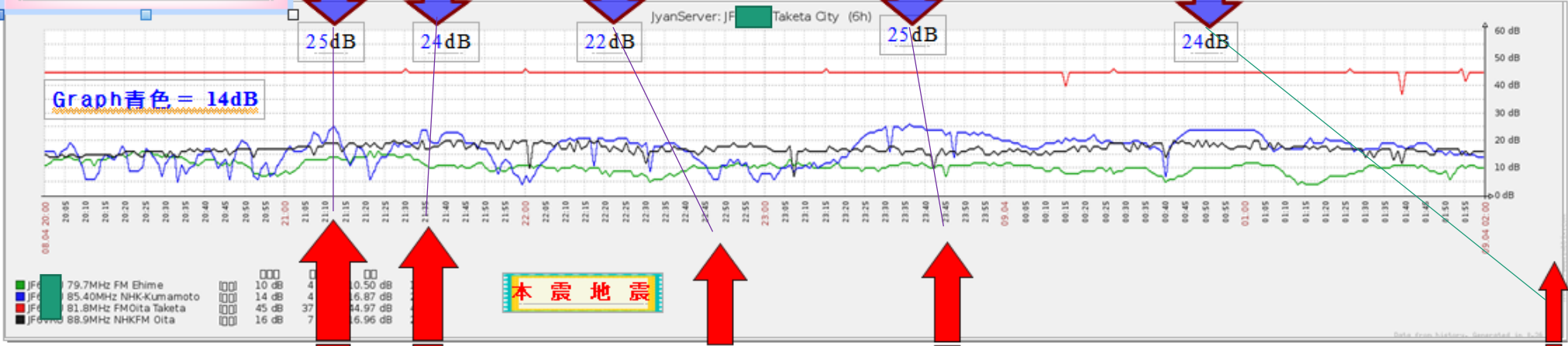


熊本地震前震の本震の次は何分後判る

前震照合グラフ



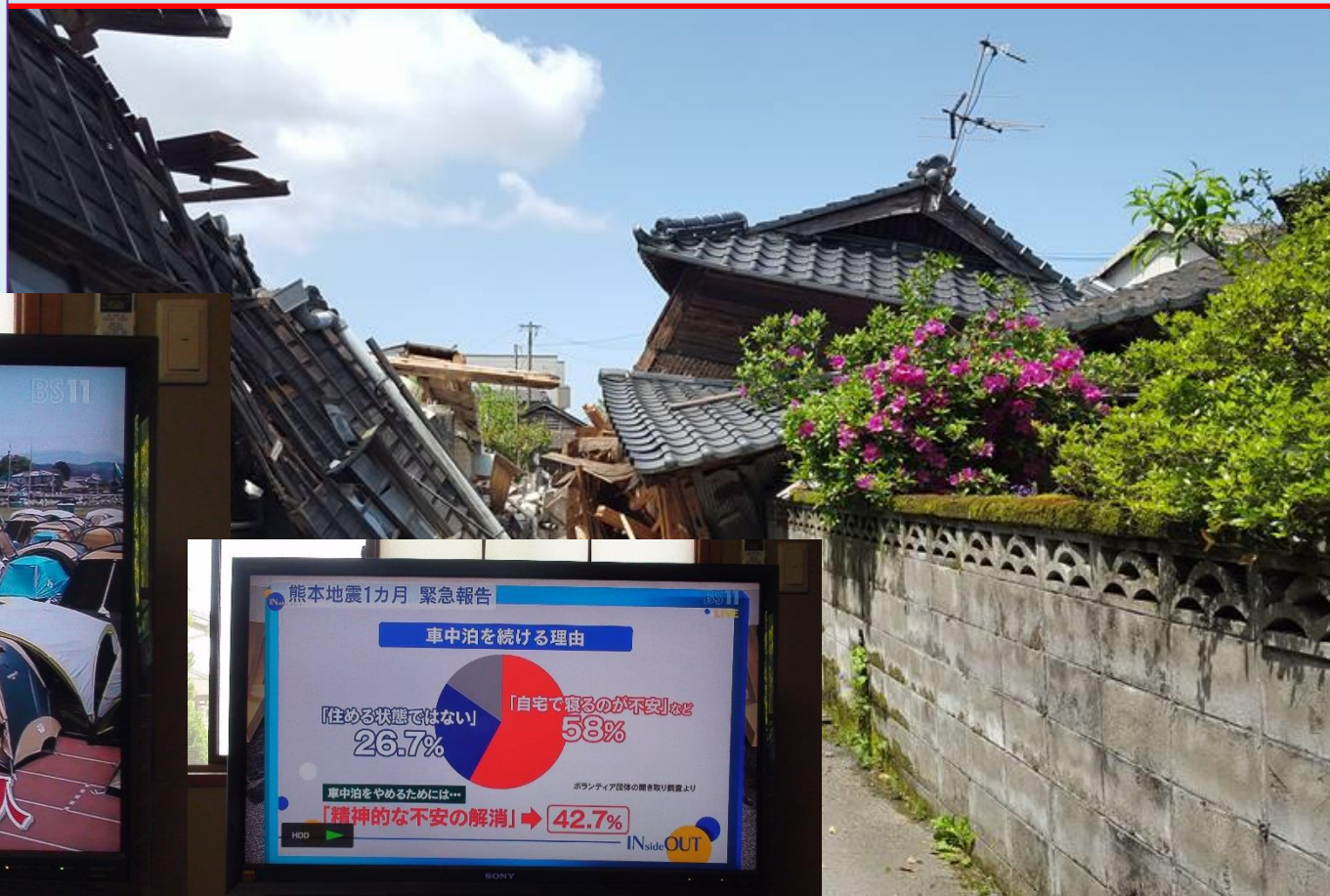
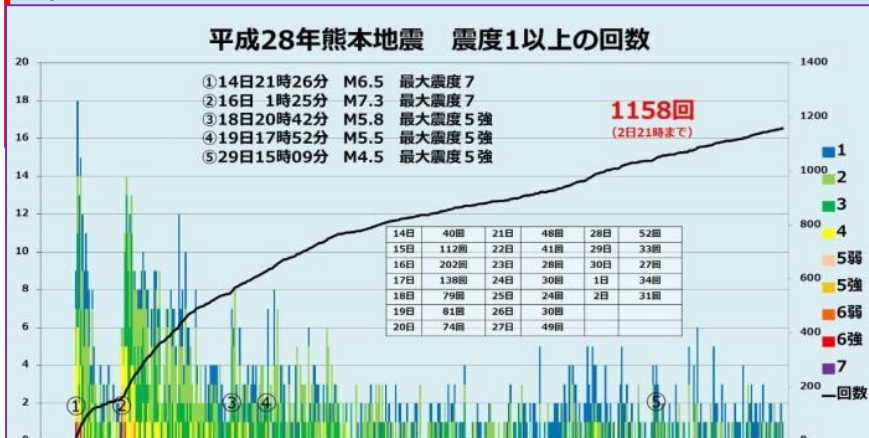
本震照合グラフ



これが一週間前に判るとは！

熊本-大分連続大地震(2016-4/14~16~)

死者 50人 避難者 18万で長期

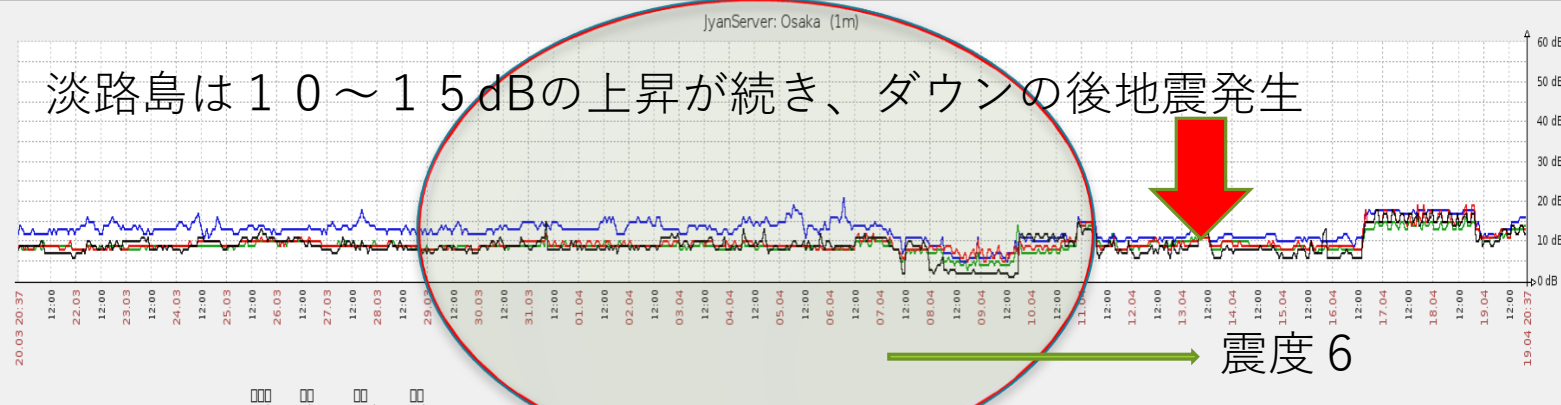


地震の観測例（両方とも1週間後に地震発生） 淡路島地震 と 長野地震 100%

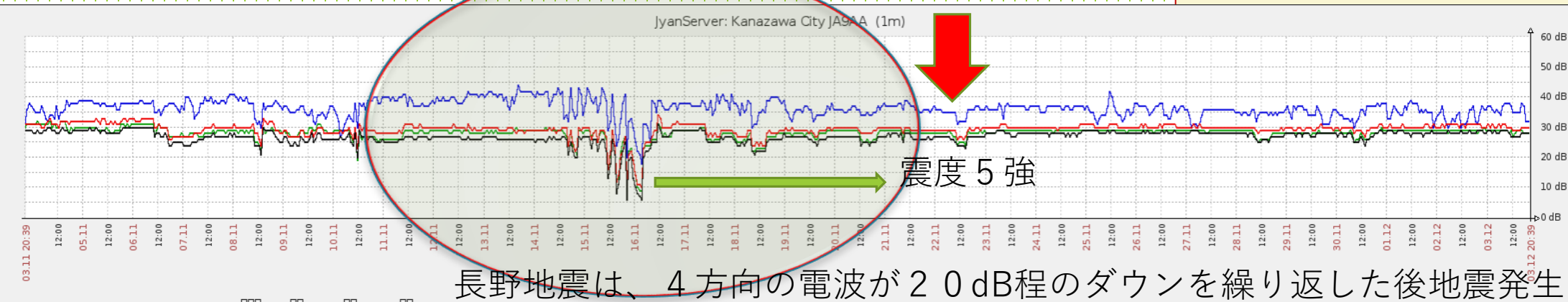
淡路島は
レベルアップ
(2013年4月)

長野地震は
レベルダウン
(2014年11月)

例超多数有り

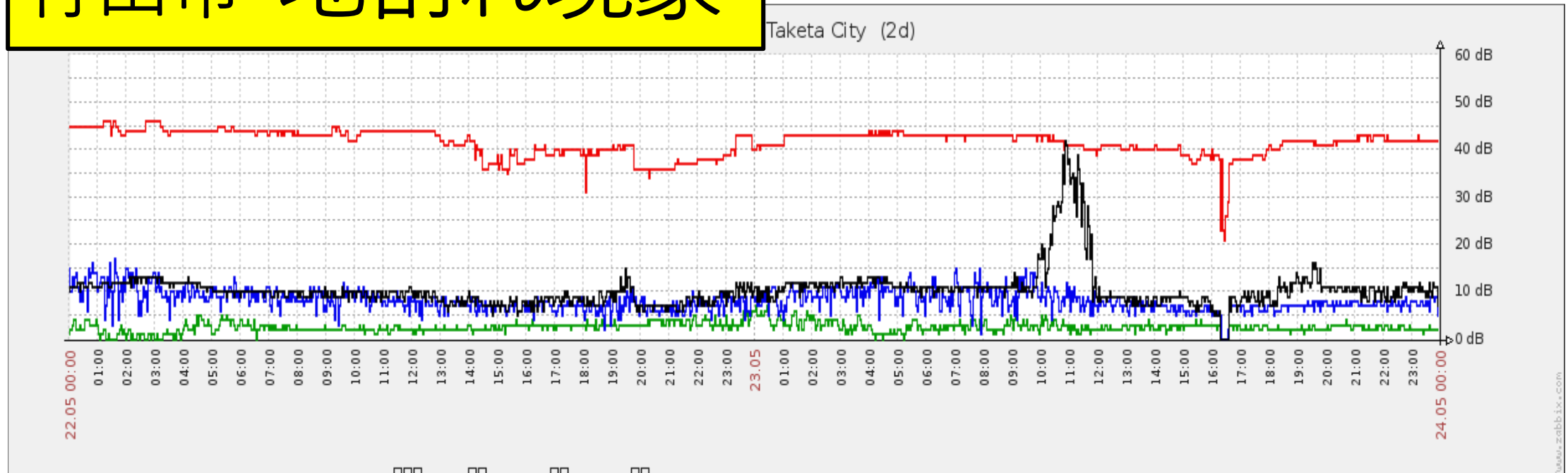


淡路地震は、青の姫路電波がダウン、全部もダウンの後1週間後地震発生



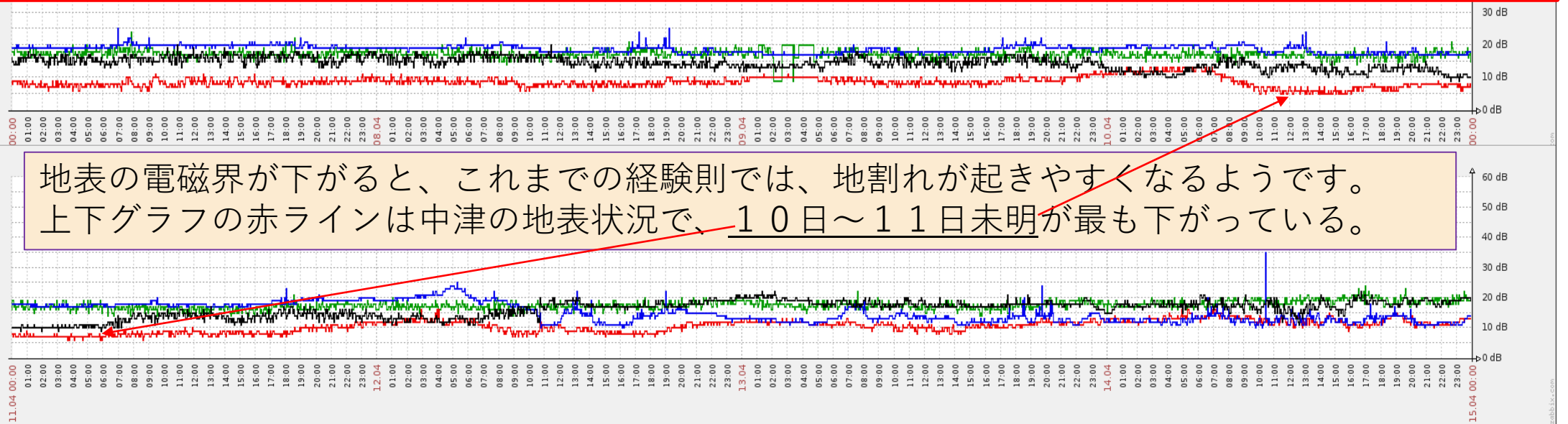
地震予知の3要素 揺れの大きさを震度、揺れのパターンでいつ、揺れの方角Checkで場所

竹田市 地割れ現象



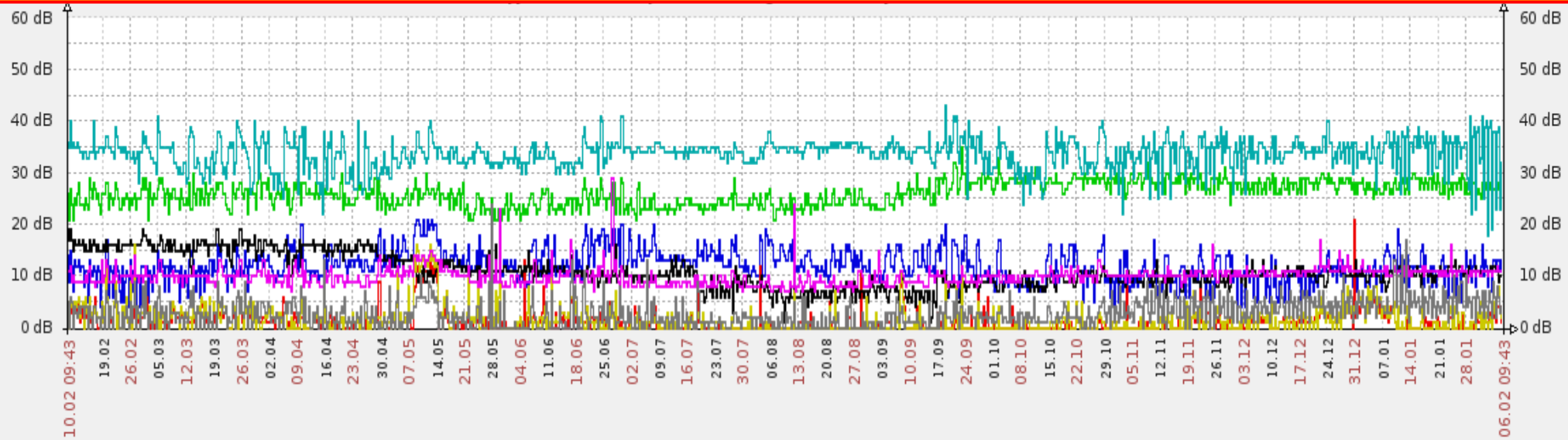
- 竹田の地割れを、赤線グラフの落ち込みが捉えています。
- 地質学の先生の指導で、大分県は水を抜くボーリング工事を多くしましたが、殆ど効果はありませんでした。
- 当HPで予想した通り、3回の大きい地割れ後に収束しました。

中津の山崩れの原因は、誰も判らない？



- 学者連は判らないと言うが、**私は山崩れの原因を、翌日のホームページに書きました。**内容は、
(1) 3月の初旬と中旬に滅多に無い程の大雨で、地盤が軟らかくなった。
(2) 山崩れの3日前に風速15mの大風が大杉を揺らし地盤がぐらついていた。
(3) ここは急斜面であり、日頃でも石ころが落ちてくるほどで、地滑りや山崩れ危険が高かった。
(結) 電磁観測グラフでは、10日～11日未明に表層が伸びるので、地割れ危険が高く、石ころなどの落下が、山崩れのトリガーとなったものと予想しています。(喜多方も似ています。)

桜島・新燃岳等の観測(鹿児島・宮崎)



- 桜島や新燃岳等の噴火がある時は、上記のように揺れ変化が出ます。
- 火山によって変化模様が違いますが、火山噴火専用に観測網を置けば、
- 地殻に変動があった段階で、危険度の予測が出来るようになります。

<http://www.zabbix.com>

観測室
無線は
オタク
3ギガ
迄50年

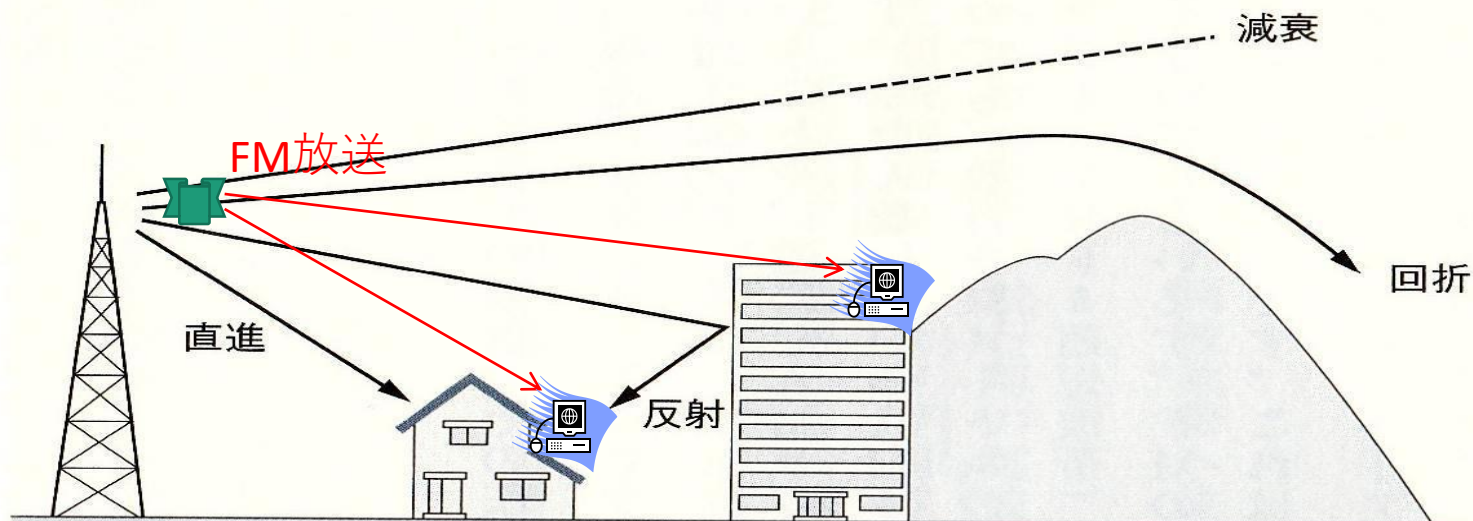


どんな観測ですか？

電磁波の観測をいろいろな方法で行っていますが、当観測網では、地表を伝わるFM放送電波を(主として)直接的受信で揺らぎ現象等を観測しています。

- 観測網では、直接波を受信するため数m～十数m高の見通しアンテナで観測しDataを収集しています。なお、直接波観測は、電界強度の±両方向の観測が良く判ります。

図2-4 電波の性質



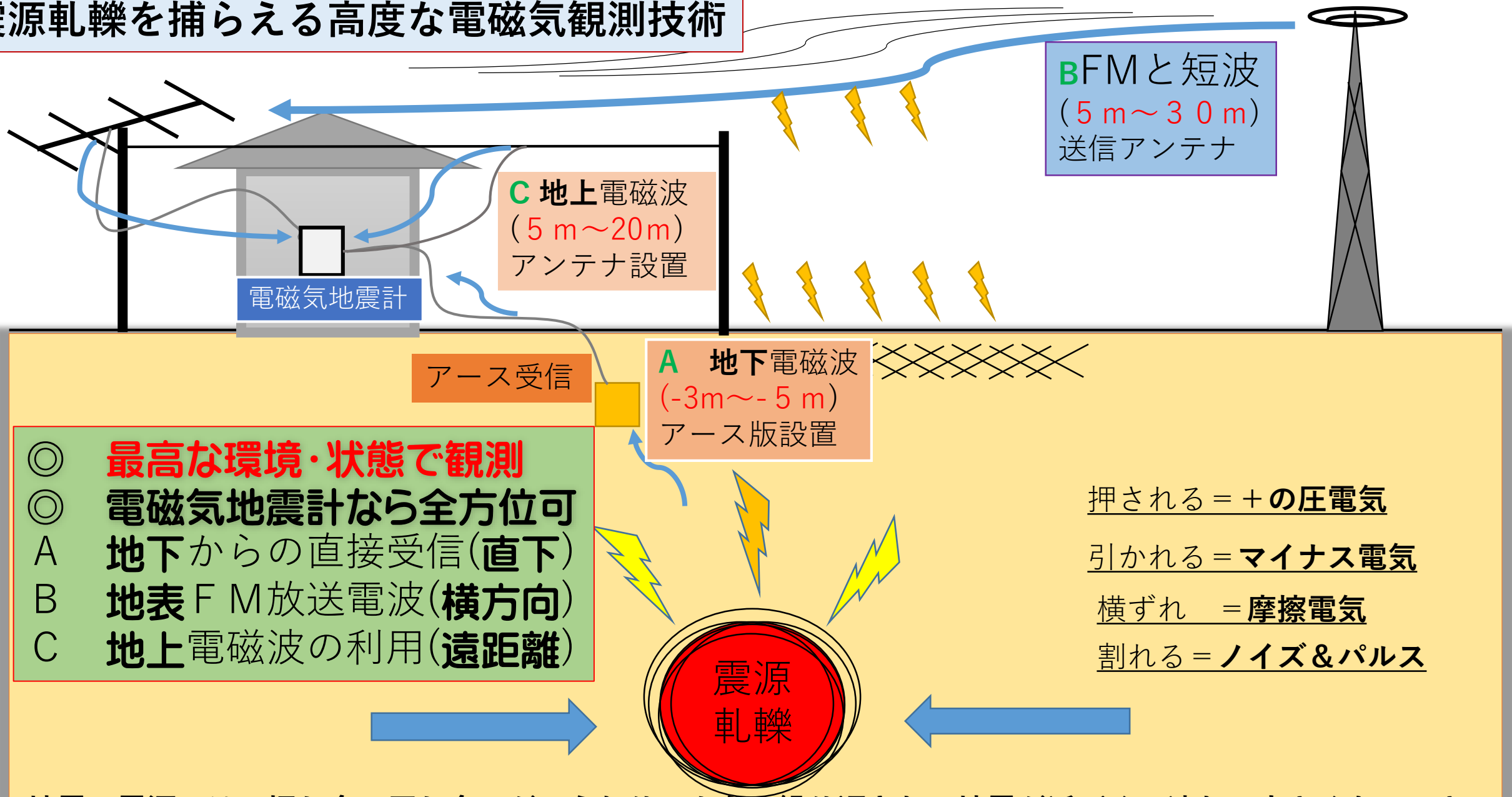
遠くは、100Km程度のフレネルゾーン迄の地表波を観測していますが 電離層は、地80Km～300Kmと高く、観測焦点がボケるので、1局のエリアは横50Km程度としています。

FM受信用
ダイバシティ
アンテナの例



簡単？
No
高度技術が必要

震源軋轢を捕らえる高度な電磁気観測技術



- ◎ **最高な環境・状態で観測**
- ◎ **電磁気地震計なら全方位可**
- A **地下からの直接受信(直下)**
- B **地表FM放送電波(横方向)**
- C **地上電磁波の利用(遠距離)**

押される = + の圧電気
引かれる = マイナス電気
横ずれ = 摩擦電気
割れる = ノイズ & パルス

地震の震源では、押し合い圧し合いが、うねりのように繰り返され、地震が近づくに連れて大きくなってきます。それが「電磁気地震計」に、電磁波の強さや、ノイズ、パルス等として現れるのを観測しています。

電波観測装置

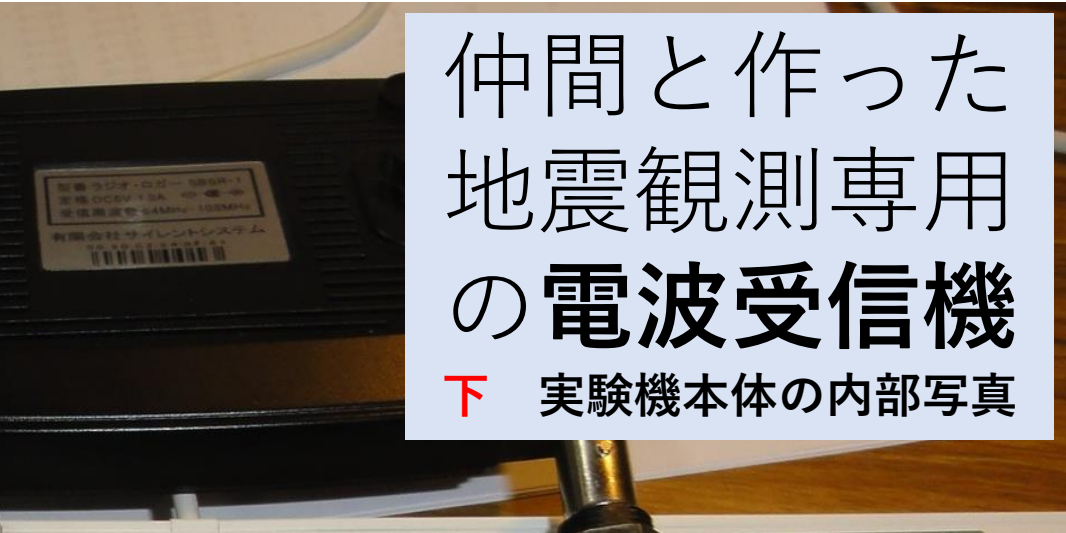


試作 2 号機

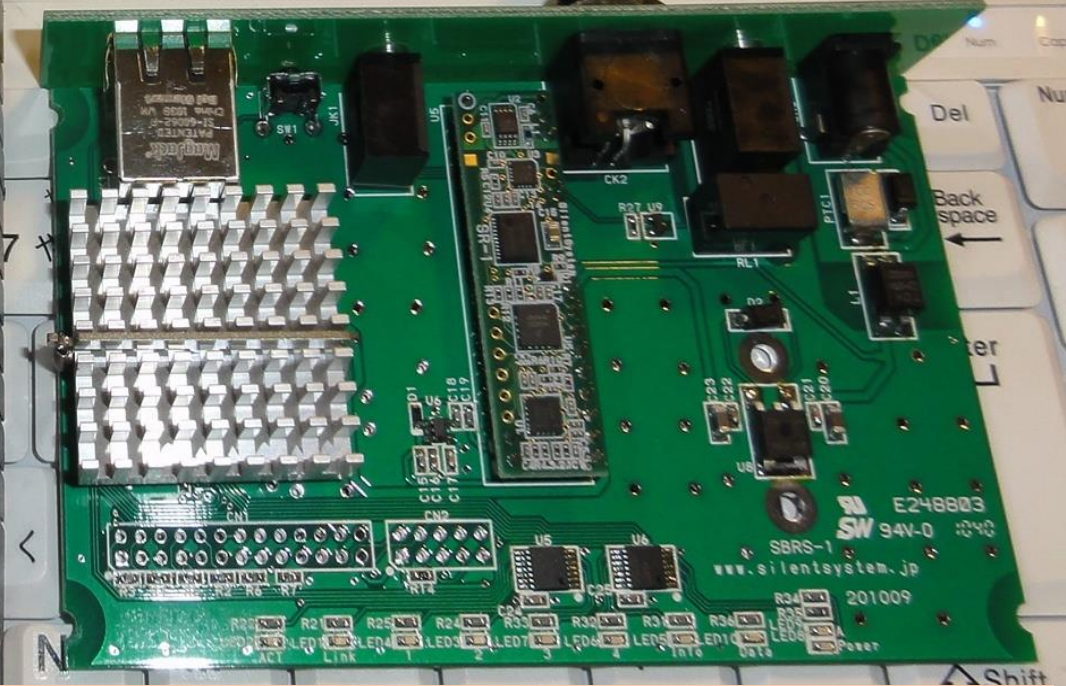
[ラジオロガーはFM
8CHを受信し全国
Netで、Live観測が
できる最強マシン！



表面側



仲間と作った
地震観測専用
の電波受信機
下 実験機本体の内部写真



全容写真 FM受信専用のNet受信機として開発(2008年)全国Net構築へ

研究23年「できた事」と「新発見！」

- 無線資格は第1級 海外と交信で電波はオタク級の実力
- 地震前兆現象、10年かけて実験し、観測装置も開発した。
- 新発見の連続、20年かけて電磁理論構築、観測で確認済
- 1 電磁波の観測法、2 電波ミラージュ発見、3 アース伝搬発見
- 4 潮汐と同期発見、5 電磁波異常と地震の相関関係発見
- 7 観測網で地震予知 3原則の解析方法確認、自動化を開発中
- 8 電磁ノイズと電磁パルスの解析によって「**切迫度開発**」
- 9 地震・噴火・地割れ等と地殻異常の関係を電磁気観測で解明
- 10 「下＝アース,横＝FM電磁波,上＝短波観測」で予測率達成！

東日本大震災

2011.3.11(約2万人)



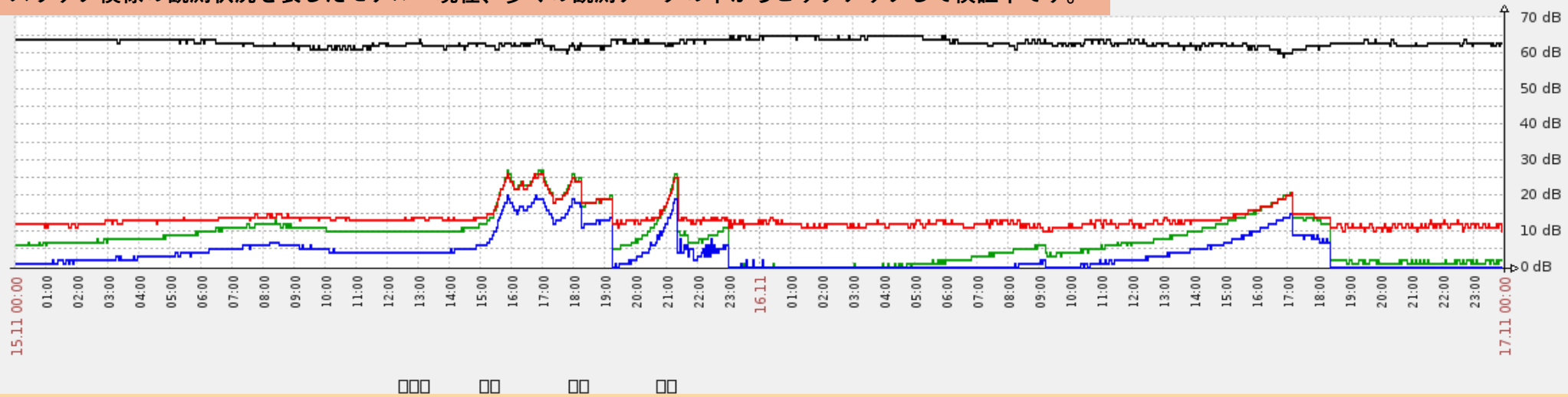
海が燃えた！



まさかこんな津波が来るとは！？

この災害は想定外と言われたが、実は、地震学者・気象庁・行政・住民等の間違いだらけ？の災害だった。
◎三陸は、ハザードマップで地震の来ない所とされ、津波も、3～5m高が、奥では15mもあった。

プレスリップ模様の観測状況を表したモデル 現在、多くの観測データの中からピックアップして検証中です。



- トラフ地震が読める **プレスリップ観測技術はあと少し！**
 - (1) 海岸観測局で、プレスリップ模様の観測データがあります。
 - (2) 海洋型の電磁気地震計を開発中で、トラフ地震を数週前に捕捉します。
- 3観測(上中下)を、統合して予測すれば、最も正しい情報となるでしょう。
- 観測機器やソフト、アンテナ、解析ソフト、統合システム等は**ノウハウが沢山**です。23年間の蓄積技術は、その多くが知的財産となるでしょう。

将来的な目標

- プロ用の電磁気観測計を作りたい。
- 全国に電磁気観測網を敷設したい（数億～数十億円）
- トラフ等の観測に海洋型電磁気観測機で観測網を敷設
（構想はあるが、費用的には億から数十億のお金がかかる）
- 地象観測の総合観測センターとして、WeatherNewsのように
（天気予報のような見える地象GrandNews形式でお知らせ）
危険情報を配信して安全生活に貢献したい。
- 地象総合研究所を作って、世界的な発展拠点としたい。